

2019 JRC・APRC Rally Hokkaido Report

2019年 全日本ラリー選手権・アジアパシフィックラリー選手権 ラリー北海道レポート

2019年9月20日~22日

開催地：北海道帯広市を中心とする十勝地方

路面：グラベル（非舗装路）／総走行距離：888.33km、SS 総距離：202.36km

PIAA サポートチームが各クラスで活躍

itzz RALLY TEAMのSUBARU WRX STI 鎌田・鈴木選手組が最高峰のJN1 クラスで2位

混戦のJN2 クラスでは TGR Vitz GRMN の眞貝知志選手が6勝目をあげタイトルを獲得！

ARTA オートバックスラリーチームの石川・竹藪選手組が JN5 クラスを制覇！



JN2 クラス優勝でシリーズタイトルを獲得した Vitz GRMN Rally の眞貝選手（今回のみコ・ドライバーは眞作選手）



JN1 クラス 2位の WRX STI を駆る鎌田選手



JN5 クラス 優勝の ARTA オートバックスラリーチーム VITZ GR

■概要／Outline

国内外のレースシーンで活躍する PIAA はラリー競技においても名門として定着。WRC（世界ラリー選手権）で数多くのワークチームをサポートするほか、国内最高峰シリーズの JRC（全日本ラリー選手権）においても 1982 年に横浜ゴムと ADVAN-PIAA Rally Team を結成して以来、アドバンのワークスドライバーとともに数々のタイトルを獲得している。

PIAA のモータースポーツへのサポートは現在も継続されており、2019 年の JRC でも各クラスで PIAA ユーザーが活躍中だ。まず最高峰の JN1 クラスに目を向けると、ADVAN-PIAA Rally Team で三菱ランサーエボリューションXを駆る奴田原・佐藤選手組が第 3 戦のターマックイベント、ツール・ド・九州（佐賀県）でシーズン初優勝を獲得を含め、ラリー北海道までの大会で7戦中（出場は6戦）計5回表彰台を獲得しランキング首位を快走。さらに itzz RALLY TEAM で VAB 型のスバル WRX STI を駆る鎌田・鈴木選手組もコンスタントな走りでも上位入賞を重ねている。

残念ながら 9 月 20 日～22 日、北海道を舞台に争われたグラベルイベント、第 8 戦のラリー北海道では奴田原・佐藤選手組はレグ 1 でアクシデントに見舞われて 6 位に留まることとなったが、21 日にナイトステージとして争われた SS8 でベストタイムをマーク。さらに鎌田・鈴木選手組も計 4 回の SS ウインを獲得し、2 位入賞で今季 2 度目の表彰台を獲得した。



PIAA LED ヘッドライトバルブ装着の ADVAN-PIAA ランサー



PIAA HID ライティングシステム装着の itzz Rally Team の SUBARU WRX STI

一方、他のクラスに目を向けると TOYOTA GAZOO Racing でトヨタ・ヴィッツ GRMN Rally を駆る眞貝知志選手がラリー北海道でシーズン6勝目を獲得し、混戦の JN2 クラスでタイトルを獲得。



また JN5 クラスでは ARTA オートバックスラリーチームでトヨタ・ヴィッツ GR を駆る石川・竹藪選手組がシーズン初優勝を獲得するなど PIAA ユーザーが活躍した一戦となった。



■レポート/Report

全 10 戦で争われている 2019 年の JRC には、国内のトップチームおよび有カドライバーが集結。世界的に見ても競争力の高いシリーズとなっているが、そのなかで注目を集めているドライバーが ADVAN-PIAA Rally Team の奴田原文雄選手だといえるだろう。

奴田原選手はこれまでに 10 度に渡って最高峰クラスでチャンピオンに輝いている JRC のトップドライバーで、2019 年も PIAA のライティングシステムおよび撥水シリコンゴムワイパーを装着した三菱ランサーエボリューションXで JN1 クラスにエントリー。第3戦のツール・ド・九州で今季初優勝を獲得したほか、計5回表彰台を核としており、ランキング首位を快走している。



WRC でも使用されている競技用ランプに LED ハルブを装着



SS1 のナイトセッションではランプポッドは必須！

同時に注目を集めている逸材が itzz RALLY TEAM より JN1 クラスに参戦している鎌田卓麻選手にほかならない。鎌田選手は 1990 年代後半から海外ラリーで活躍してきたドライバーで、2005 年～2008 年には PWRC (プロダクションカー世界ラリー選手権) で活躍したほか、2014 年には PIAA ライティングシステム、撥水シリコンゴムワイパーを装着したスバル BRZ を武器に JN5 クラスでチャンピオンを獲得した。2015 年からは PIAA のライティングシステムおよび撥水シリコンゴムワイパーを装着した VAB 型のスバル WRX で最高峰クラスに参戦しており、2019 年も開幕戦のスノーイベント、ラリー・オブ・嬬恋 (群馬県) で 3 位入賞を果たすなど上位争いを展開中だ。



WRX にはランサーと比較して一回り小型のランプを装着



暗闇の中で威力を発揮する PIAA ライティングシステム

このように PIAA のサポートドライバーは JRC の最高峰クラスで活躍しているが、奴田原選手、鎌田選手の両雄は 9 月 20 日～22 日、北海道を舞台にした高速グラベルイベント、ラリー北海道でも素晴らしい走りを披露していた。

まず、20 日の夕刻、ナイトステージとして開催された SS1 で鎌田選手が 2 番手タイム、奴田原選手が 3 番手タイムをマークしたほか、21 日の SS2 では鎌田がベスト、奴田原が 2 番手タイムをマークするなど PIAA のサポートドライバーが序盤から好タイムを連発している。残念ながら奴田原選手は予想外のアクシデントに見舞われて総合 6 番手でレグ 1 を終えるものの、ナイトステージとして争われた SS8 でベストタイムを叩き出し、持ち前のスピードを証明している。

これに対して SS5 で 2 回目の SS ウインを獲得するなど鎌田選手は好調でトップから 25 秒遅れの 3 番手でレグ 1 をフィニッシュした。さらに翌 22 日のレグ 2 でも SS9、SS10 でベストタイムをマークするなど猛追を披露し、総合順位でも 2 番手に浮上した。鎌田選手はその後もポジションをキープし 2 位に入賞、今季 2 度目の表彰台を獲得したほか、SS11 でベストタイムをマークした奴田原選手も 6 位入賞を果たしたことで貴重なポイントを獲得した。

この結果、ポイント争いで奴田原がランキング 3 位につけるほか、鎌田も同 5 位につけるなど PIAA ユーザーの両雄が JN1 クラスで上位争いを展開。それだけに第 9 戦のターマックイベント、ラリーハイランドマスターズ (岐阜県)、第 10 戦のグラベルイベント、MSCC ラリー in 福島 (福島) でも奴田原選手、鎌田選手の PIAA ユーザーが上位争いを繰り広げてくれることでしょう。

一方、JN2 クラスに目を向けると 2019 年は TOYOTA GAZOO Racing の眞貝知志が圧倒的な強さを披露。第 8 戦のラリー北海道でも PIAA のライティングシステムおよび撥水シリコンゴムワイパーを装着したトヨタ・ヴィッツ GRMN Rally を武器にトップ争いを支配していた。SS4 でパンクに見舞われるものの、計 4 回の SS ウインをマークした眞貝選手がレグ 1 をトップでフィニッシュ。その勢いはレグ 2 でも衰えず、6 回連続の SS ウインでリードを拡大した結果、眞貝選手は今季 6 勝目を獲得し、2019 年の JN2 クラスでチャンピオンに輝いた。

JN4 クラスでは KYB DUNLOP スイフトを駆る PIAA LED バーライトを装着する関根・草加組は LEG1 序盤の SS4 クンネイワで残念ながらコースオフを喫してしまい、シリーズチャンピオン獲得は持ち越された。



LED バーライトを装着してナイトステージに向かう KYB DUNLOP スイフト

また JN5 クラスでは ARTA オートバックスラリーチームの石川昌平選手も PIAA ユーザーとして躍進しており、PIAA のライティングシステム、撥水シリコンゴムワイパーを装着したトヨタ・ヴィッツ GR で素晴らしい走りを披露していた。まず、ナイトステージの SS1 でベストタイムをマークすると、翌日の SS6、そしてナイトステージの SS8 でもベストタイムを叩き出し、レグ1 をトップでフィニッシュ。レグ2 ではそのままポジションをキープし、今季初優勝を獲得した。



「ラリー女子」として注目を集めるクスコレーシングの水原亜里沙選手も PIAA のサポートドライバーのひとりで、PIAA の LED バーランプ、LED ヘッドライトバルブを装着したトヨタ・ヴィッツ CVT を武器に JN6 クラスで3位入賞。さらにエムスポーツ・アストロノーツ SHAF の南野保・ポール サント選手組も PIAA の LED バーランプを装着したマツダ・デミオを武器に JN5 クラスで5位入賞を果たすほか、圭ラリープロジェクトの竹岡圭・佐竹尚子選手組も PIAA LED バーランプを装着したフォルクスワーゲン・ポロを武器に JN2 クラスで5位完走を果たすなど、PIAA ユーザーが各クラスで活躍した。



LED バーランプはコンパクトなので車両への装着もしやすい

なお、APRC（アジアパシフィックラリー選手権）の第7戦では、HASEPRO RACINGの長谷川智秀選手がPIAAのライティングシステムを装着した三菱ランサーエボリューションXで総合10位、RC2クラスの8位で完走。さらにTRDの小濱勇希選手もPIAAのライティングシステム装着のトヨタ86を武器に総合9位、RC3クラスで1位を獲得するなど、同時開催の国際ラリーでもPIAAユーザーが躍進する大会となった。



APRCで見事完走を果たしたHASEPRO RacingのランサーエボリューションX



APRC 参戦のTRD 86にPIAAライティングシステムを装着

TRD86はモンレーに続き、ラリー北海道でクラス優勝を果たし、APRC（アジアパシフィックラリー選手権）のチャイナファイナル参戦権を獲得した！

■ユーザーの声/User's Voice

眞貝知志 選手

TOYOTA GAZOO Racing/ドライバー

マシン：トヨタ・ヴィッツ GRMN

「HID ランプはメーカーによって青白いモノもあるんですけど、PIAA の光は自然な感じの純白なので見やすいですね。遠くもよく見えるし、照射範囲もワイドなのでライティングシステムとしてはレベルが高いと思います。ラリー北海道で初めて PIAA のシステムで本格的にナイトステージを走ったんですけど本当に明るいランプだと思います」



宮本昌司 チーフメカニック

TOYOTA GAZOO Racing/チーフメカニック

マシン：トヨタ・ヴィッツ GRMN

「2019 年から PIAA のライティングシステムを採用しているんですけど、マウントしやすいし、配線もシンプルなので取り付け作業は簡単ですね。それにバラストも小さいので好きな所にレイアウトすることもメカニックとしてはありがたいところでした。明るさはもちろん、セッティングの幅も広いので、ラリー競技のナイトステージに合っていると思います。アイドリングも安定しているし、他のランプと違って減光することもないのでメカニックとしては安心して使用できますね」



ヘッドライトには HID コンバージョンシステムを装着

ランプポッド用には YARIS WRC にも使用されている HID ライティングシステムを装着！

ランプ自体は競技用だが HID システムは市販品を使用しており、市販品の信頼性、スペックの高さを証明している。

PIAA ライティング WEB サイト

<http://www.piaa.co.jp/4rin/light/>

PIAA 撥水シリコンワイパー WEB サイト

<http://www.piaa.co.jp/4rin/wiper/>

竹岡 圭 選手

圭ラリープロジェクト/ドライバー

マシン：フォルクワーゲン・ポロ GTI

「今回、PIAA のLED バーランプを使用したんですけど、コンパクトながら遠くまで照らしてくれるし、上下左右とも全体的に明るいのでナイトステージでも良く見えました。色もナチュラルな白だったので見やすかった。ダストが多いところは反射して見えにくいところもありましたが、本当に明るいので驚きました」



LED バーランプを装着、コンパクトサイズながら明るさ、色味、配光に優れていると評価。

SS1では前走車が巻き上げた砂埃に行く手を阻まれたとのことですがしっかり走破しました！

水原亜里沙 選手

クスコレーシング/ドライバー

マシン：トヨタ・ヴィッツ CVT

「ラリー北海道はPIAAのLEDバーランプを装着してナイトステージを走りました。サイズは小さいけれど、全体的に明るかったですね。遠くも見えるし、色も自然な白だったので見やすいと思いました」



LEDバーランプとヘッドライト用LEDバルブを装着、ホワイト光ながら水原選手にも自然な白なので見やすい色と太鼓判を押して頂きました。ラリー北海道は初参戦とのことでしたが見事表彰台獲得しました。

PIAA LED ランプ WEB サイト

<http://www.piaa.co.jp/category/4rin/light/4-lampled/>